

学習指導要領改訂に伴う道徳の教科化と 医療者－学校連携の可能性

— 医師によるいのちの授業の一例 —

Revised Moral Education and Possibility of Collaboration
between Medical Professionals and Schools
— A Lecture of the Life by Pediatricians
for Children and Adolescents —

内田 敬子* 高橋 健**

慶應保健研究, 39(1), 077-084, 2021

要旨：子どもの生きる力を育むために学習指導要領が改訂され、特別の教科として道徳が教科化された。わが国で生じた深刻ないじめに関連する痛ましい事案がきっかけである。近年子どもの自殺者数は増加傾向で、2020年の1年間はさらに急増した。子どもにかかる精神的ストレスは増大している。

2018年から2020年に、日本小児循環器学会主催の全国遠隔配信セミナー PH Japan プロジェクトを実施した。医療関係者や学校関係者が子どもの命を救うために何ができるかを、セミナーと討論の形式でともに学んだ。プロジェクトの一環として、学校と医師が連携して心臓移植をテーマとした「いのちの授業」を実施した。脳死下臓器提供、臓器移植という正解が一つではないテーマを子ども達自身が考え議論する機会となった。

学習指導要領改訂に伴う道徳の教科化をきっかけに、社会に開かれた教育課程が促進し、医療関係者による「いのちの授業」の実現性がより高くなる可能性がある。医療関係者と学校との連携が必要である。

keywords：命、道徳、学習指導要領、医療関係者、学校

Life, Moral education, the Courses of Study for All Schools,
Medical Professionals, Schools

はじめに

現在、2017年3月31日に告示された新しい学習指導要領が幼稚園・小学校・中学校・高等学校の順に次々と実施されている最中である¹⁾。この新学習指導要領の特徴の一つが「特別の教科 道徳」の教科化である²⁾。なぜ今、道徳の

時間から道徳の教科化へと改訂されたのか、その背景を考えたい。

2016年11月、当時の文部科学大臣から発せられた道徳教育に関するメッセージ「いじめに正面から向き合う『考え、議論する道徳』への転換に向けて」³⁾には、「道徳の特別の教科化

*慶應義塾大学保健管理センター **順天堂大学医学部小児科・思春期科
(著者連絡先) 内田 敬子 〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1

の大きなきっかけは、いじめに関する痛ましい事案」と明記されている。子どもの命に関わるいじめの事案を防止することが道徳の教科化の大きなきっかけであり第一の目的である。いじめは、いじめられた子どもにも、いじめた子どもにも、傍観していた子どもにも、その心に大きな傷を残す。さらに、いじめられた子どもには、心身の発達に重大な支障を生じたり、尊い命が絶たれるという痛ましい事案にも繋がる。

2020年初めに発生した新型コロナウイルス感染症の流行は、子ども達の日常をも一変させた。長期間の休校、学校が再開しても常時マスクを着用し身体的距離を保つなど、子どもの成長発達に欠かせない「触れ合い」が制限されている⁴⁾。子ども達には計り知れないほどの不安やストレスが振りかかっている。

今、私たち小児科医師をはじめとする医療関係者が子ども達の命を守るために何ができるだろうか。本稿では、診療室に留まらず、子どもの命を守るために日本小児循環器学会会員が学

校関係者と共に取り組んだ活動を紹介したい。

子どもをとりまくわが国の状況

わが国の子どもの精神的な幸福度は先進国の中で決して高くない。2020年のユニセフの報告によると、日本の子どもは身体的健康度(Physical Health)は最上位である一方、精神的幸福度(Mental well-being)は先進国38カ国中下から2番目であった⁵⁾。精神的幸福度の指標の一つが未成年者の自殺率である。わが国において、全年齢の自殺者数は最近数年間低下傾向にあったが、小学生・中学生・高校生の自殺者数は上昇傾向であった(図1)。さらに、2020年の1年間では、小学生が14人(+6人)、中学生は146人(+34人)、高校生は339人(+60人)、合計人数は499人で、前年を25%も上回り、1978年に統計を取り始めて以降、最多となっている⁶⁾。特に緊急事態宣言が全国的に解除され登校が再開された6月以降、常に前年までの自殺者数を上回っている(図1)。

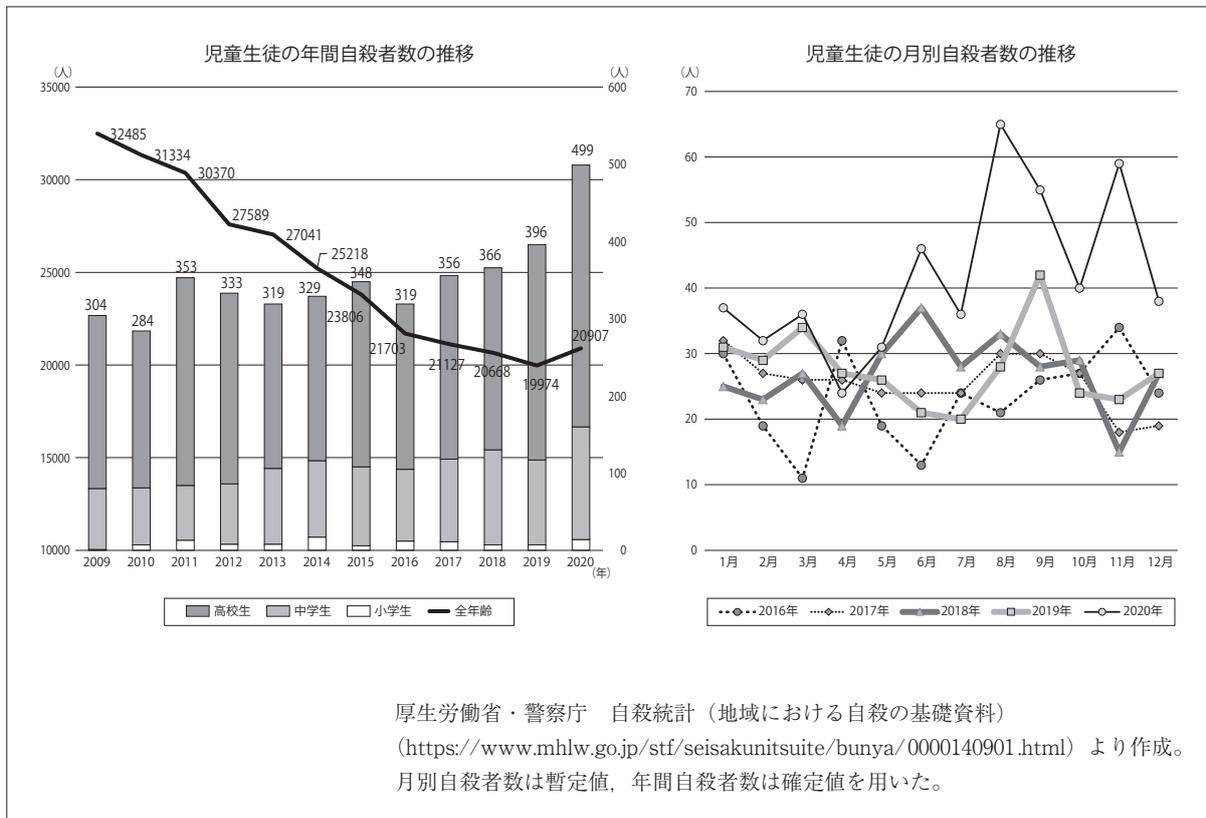


図1 児童生徒の年間自殺者数と月別自殺者数の推移

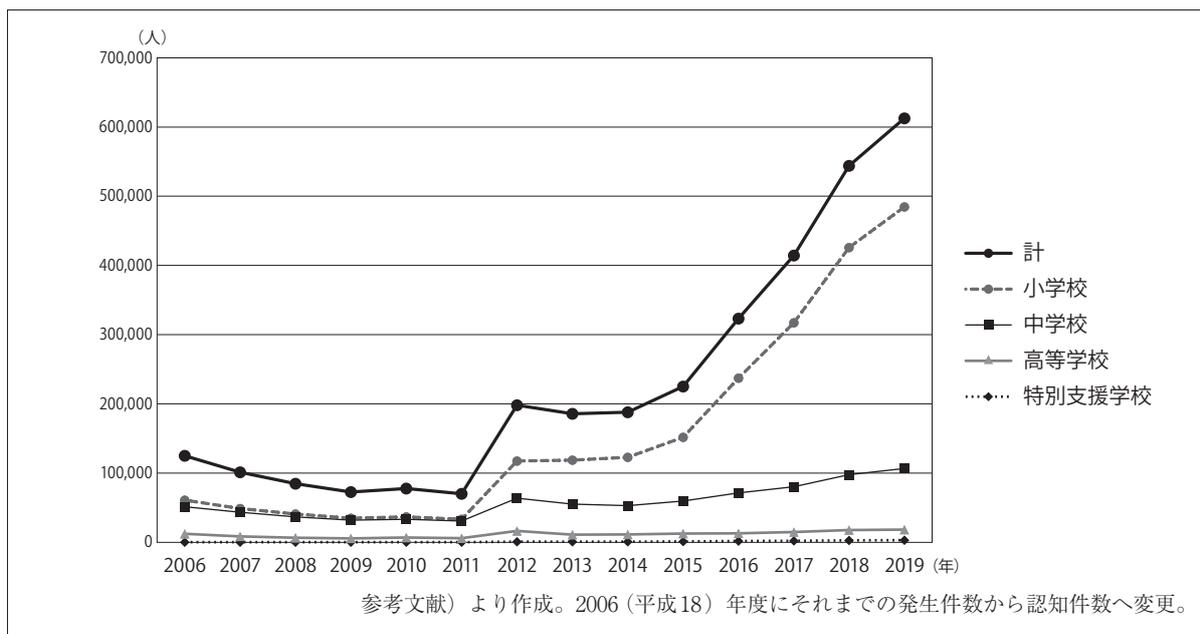


図2 小中高校におけるいじめ認知件数

わが国で子どもの精神的ストレスや自殺数が高い原因は複数考えられるが、その一つにいじめが挙げられるであろう。文部科学省の報告によるとわが国の小中高校におけるいじめの認知件数は2019年時点で60万件を超えており、増加の一途をたどっている(図2)。この数値の

注意すべきところは2006(平成18)年度以降、それまでいじめの発生件数を集計していたが、認知件数へ変更されているという点である。子どもの命を奪うほどの深刻ないじめ事案が発生する中(表1)、文部科学省は、いじめの認知件数が多い学校はいじめを初期段階のものも含

表1 道徳教育の変遷と社会のできごと

道徳教育	社会のできごと
1958 道徳の時間の特設(文部省「『道徳』の実施要綱について」通達)	1947 学習指導要領一般編(試案)制定
1968 道徳の内容:2つの視点*	1951 学習指導要領改訂
1986 臨時教育審議会教育改革に関する第二次答申「徳育の充実」提言	1958-60 学習指導要領改訂, 教育課程の基準として明確化
1989 道徳の内容:4つの視点**で構成	1968-69 学習指導要領改訂【教育内容の現代化】
1998 中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申	1977-78 学習指導要領改訂【ゆとりと充実の実現】
2001 文科省道徳用教材「心のノート」作成	1986 東京中野富士見中いじめ自殺事件
2007 教育再生会議「徳育の教科化」提言	1989 学習指導要領改訂【豊かな人間性の育成, 生活科の新設】
2008 道徳教育推進教師, 情報モラル, 授業の公開等が示される	1997 神戸市連続児童殺傷事件(酒鬼薔薇事件)
2013 教育再生実行会議(道徳の教科化提言)	1998-99 学習指導要領改訂【生きる力の育成, 総合的な学習の時間の設置】
2014 「私たちの道徳」(「心のノート」全面改訂版)を配布	2004 佐世保小6女児同級生殺害事件
中央教育審議会道徳の「特別の教科」(仮称)化を答申, 4つの視点***	2008-09 学習指導要領改訂【生きる力・活用型学力, 小学校外国語活動の新設】
2017 小・中学校学習指導要領公示	2011 滋賀県大津市いじめを苦にした中2自殺事件
2018 小学校:「特別の教科 道徳」の全面实施	2015 学習指導要領一部改正
2019 中学校:「特別の教科 道徳」の全面实施	2017-18 学習指導要領改訂【新しい「資質・能力」観】

*2つの視点:「自他の自由と自己の責任」「国家・社会の成員としての道徳的態度と実践的意欲」

**4つの視点:「日常生活の基本的行動様式」「道徳的心情, 道徳的判断」「個性の伸長, 創造的な生活態度」「国家・社会の成員としての道徳的態度と実践的意欲」

***4つの視点:「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」「生命や自然, 崇高なものとの関わり」東京学芸大学道徳教育研究会 これからの道徳教育と道徳授業を考えるために<道徳教育関係資料集>平成30年夏季および参考文献7)を参考に作成

めて積極的に認知し、その解消に向けた取り組みのスタートラインに立っていると肯定的に評価しており、いじめを水面下で深刻化させる前にその実態を捉えようとしている表れともいえる。

ここ数年で、子ども達の周囲にも「携帯やスマホ」といった情報通信メディアを介したコミュニケーションが一気に広がり、コミュニケーションや人間関係の構築手段は大きく変化している。子ども達も膨大かつ質的にもばらついた情報に簡単に触れられる環境にある。情報通信技術の発展による子ども達の生活変化・コミュニケーション様式の変化は急速であり、いわゆる個々の家庭での「しつけ」のみでは対応しきれない状況ともいえる。

2011年、それまでの対策も空しく、いじめに関する痛ましい事案が生じた(表1)。いじめの防止に向けて道徳を量的にも質的にも転換させる大きなきっかけとなった。それまでの道徳の時間にも、いじめに関することが多く含まれていたが、登場人物の心情理解や分かりきつ

たことを言わせたり書かせたりする指導に終わることが多かった。授業を受けた児童生徒がためになったと感じる割合は学年が上がるにつれて低下しているばかりか、道徳授業を実施した教員側も十分実施できていると感じている者の割合が2-3割とかなり低く、道徳教育の教材や効果の指導方法、効果の把握について、困難さを感じているとの実態が明らかになった²⁾。これらの実態・課題が道徳の教科化を推し進めていった。

学習指導要領改訂と道徳の教科化

学習指導要領とは全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程の基準である。約10年ごとに改訂を重ね、2017年に改訂されたものが最新である(表2)⁷⁾。学校における教育は、これまでと同様に子ども達に「生きる力」を育むことを目標としている。新学習指導要領の改訂ポイントは、育成を目指す「資質・能力」(何を学ぶ

表2 学習指導要領変遷のポイント

学習指導要領制定・改訂年	概要
昭和22(1947)年制定	学習指導要領一般編(試案)制定、「社会科」、「家庭科」、「自由研究」創設。児童中心主義教育
昭和26(1951)年改訂	「自由研究」は「教科以外の活動」へ変更
昭和33～35(1958～1960)年改訂	教育課程の基準として明確化。「道徳の時間」の新設
昭和43～45(1968～70)年改訂	教育内容の一層の向上(「教育内容の現代化」)
昭和52～53(1977～78)年改訂	ゆとりある充実した学校生活の実現=学習負担の適正化
平成元(1989)年改訂	社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成(「生活科」の新設、高等学校家庭科の男女必修化、道徳教育の充実)
平成10～11(1998～99)年改訂	基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設、情報科を高等学校で導入)
平成20～21(2008～09)年改訂	「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランス(授業時数増、授業内容の充実、小学校外国語活動の導入)
平成27(2015)年一部改訂	道徳の「特別の教科」化。「答えが一つでない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換
平成29～30(2017～2018)年改訂	「生きる力」の育成を目指し資質・能力を三つの柱*で整理、社会に開かれた教育課程の実現(「アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)」の視点からの授業改善、カリキュラム・マネジメントの推進、小学校外国語科の新設)

*三つの柱=「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」
参考文献7)より作成

か)を三つの柱(①知識及び技能(「何を理解しているか,何ができるか」),②思考力,判断力,表現力等(「理解していること・できることをどう使うか」),③学びに向かう力,人間性等(「どのように社会・世界と関わり,よりよい人生を送るか」))で明確化し,全ての教科において三つの柱に分類し整理している点である。「何を学ぶか」だけでなく,「どのように学ぶか」すなわち「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を重要視している。「主体的・対話的で深い学び」の充実には学校全体として複数の教育課程を横断的に編成したり,学校外の保護者や地域と連携した「社会に開かれた教育課程」を構築したりすることでカリキュラム・マネジメントを確立して,教育活動の質を向上させ学習効果の最大化を図る。この新学習指導要領は2017年に改訂が告示され,小学校は2020年度から,中学校は2021年度から全面実施,高等学校は2022年度から年次進行で実施予定となっている¹⁾。

新学習指導要領の改訂に先行して,2015年に一部改正され小学校・中学校において「特別の教科 道徳」が教科化されることが決定した。小学校では2018年度から,中学校では2019年度から道徳科が始まっている。道徳教育の目標は,「自己の生き方を考え,主体的な判断の下に行動し,自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことである。今までの「道徳の時間」と異なり,道徳が教科化されることによって,主に次に挙げる点が変更された。

- (1) 道徳の検定教科書を導入
- (2) 週1時間(年間35単位時間)を確実に確保する
- (3) 発達段階にそった体系的なものへ改訂
- (4) アクティブラーニング(問題解決的な学習や体験的な学習など)を取り入れる
- (5) 記述式の評価(数値評価は行わない)

これらによって,正解が無い・答えが一つではない課題に子ども達が向き合い,「考え,議

論する」道徳教育への転換を図るとした。「自己を見つめ」物事を「多面的・多角的」に考える道徳教育を通して,判断力,心情,実践意欲と態度,すなわち「道徳性」を育むことを目標とする。「道徳性」こそ特別の教科道徳の目指す資質・能力である。

学会主導でおこなった子どもの命を学ぶセミナー(「学んで救えるこどもの命PH Japan プロジェクト」)

PH Japan プロジェクトは,「学んで救えるこどもの命」をテーマに,日本小児循環器学会が2018年から2年間(実際には1年延長して3年間),医療従事者,学校関係者,患者関係者を対象に,グラクソスミスクライン株式会社の医学教育事業助成の下おこなった教育事業である。全国からリアルタイムに参加可能となるように,東京を本会場として北は北海道から南は九州まで全国8か所の遠隔公開会場と多くの非公開会場を,リアルタイムのオンラインシステムで結び,双方向性の遠隔配信セミナーを実施した。2019年度最後のセミナーは新型コロナウイルス感染症の流行がまさに始まった頃に開催予定であったが,グラクソスミスクライン株式会社の承諾を得て2020年11月に延期した。奇しくもすでにオンラインシステムを構築していたこともあり,会場に集合することは叶わなかったがオンラインで充実した内容を配信することができた。

心疾患を持つ子どもに留まらず,心疾患を持たない子どもも含む全ての子どもの命を守るために,医師・看護師・技師などの医療関係者だけでなく,養護教諭をはじめとする学校関係者や家族,そして子ども自身が何をしたらいいか,私たちに何ができるかを共に学び議論した(表3)。さらに,子ども自身に命の大切さを伝えたいという思いから小学校と中学校の1校ずつでPH Japan プロジェクトメンバーと専門医が学校の協力を得て「いのちの授業」を実施し,学校の許可の下,最後のPH Japan プロジェク

表3 PH Japan プロジェクトセミナープログラム概要

日程		テーマ・タイトル		対象	
第1回	2018/8/19	午前の部	小児の心臓病のみかた（注意点と対応）	医療関係者	
			先天性心疾患（チアノーゼや肺高血圧）		
			後天性心疾患（川崎病や心筋症）		
		不整脈（胸痛や突然死）			
午後の部	知っておきたいこどもの心疾患	学校関係者			
防ごう心臓突然死 救急車到着までの5分間に何をする？					
いのちのおくりもの 臓器移植と学校生活					
心臓病の学校生活管理 運動制限ばかりが指導ではない					
第2回	2019/2/24	午前の部	これだけはおさえよう こどもの心臓病につながるこんな訴えこんな症状	学校関係者	
			どこまで防げる？児童生徒の突然死		
			本当に伝えたい！！いのちの授業～臓器移植～		
		午後の部	小児集中治療～こどもの命をまもるゴールキーパー～		医療関係者
			小児循環器疾患における感染症機器管理対策～公衆衛生的視点から～		
			本当に伝えたい！！いのちの授業～臓器移植～		
第3回	2019/8/18	午前の部	学校生活においてこどもの命を守るために	学校関係者	
			学校の先生もこどもも身につけたい救命処置		
			学校生活においてこどもを突然死から守るには？-ASUKAモデルから-		
			小児循環器医が児童・生徒に伝えたいこと 学校生活において「いのち」を考えてもらうには？		
		午後の部	患者さんの自立した社会生活とそれに向けた教育を考える		学校関係者、 患者・患者 家族
			おとなになりゆく患者さんのこころを考える		
			おとなになりゆく患者さんの医療体制を考える		
			おとなになりゆく患者さんの社会生活サポートを考える		
		患者さんの日々の生活と自立のためにともに学ぶ			
第4回	2020/11/21	小学校の部	小学校学習指導要領解説（小学校授業で「いのち」を扱うこと）	学校関係者、 医療関係者	
			いのちの授業（ビデオ供覧）		
			ディスカッション		
		中学校の部	中学校学習指導要領解説（中学校授業で「いのち」を扱うこと）		
			いのちの授業（ビデオ供覧）		
			ディスカッション		
		高校の部	高等学校学習指導要領解説（高校授業で「いのち」を扱うこと）		
			いのちの授業（ビデオ供覧）		
			ディスカッション		

トセミナーで授業のダイジェスト版を配信した。

学校医・小児循環器専門医師と学校とが連携しておこなった「いのちの授業」の一例

ここでは、PH Japan プロジェクトの事業の一環として、都内私立小学校の協力を得て行った「いのちの授業」の内容を紹介する。「いのちの授業」は、小学校何年生におこなうべきか、どのような内容を扱うか、前年度末から校長と議論した。まず初回であること、小学校5年生の理科で人体の臓器や生命の誕生がカリキュラムに入っていることから、小学校6年生の1学年に対して、「生と死（脳死を含む）について」、「心臓移植について」の2本立てで授業をおこ

なうこととした。2019年11月に、心臓移植医療に長年携わってきた小児循環器専門医とともに「いのちの授業」をおこなった。2部構成とし、前半は「生きることと死ぬこと～心臓死とは？脳死とは？」、後半は「心臓移植といのちの話」というタイトルで、前半後半ともに20分の講義に10分の質疑応答の時間をとり、通常の授業時間1時限分を延長して学校からはトータル60分の時間を頂いた。また希望する保護者の聴講も許可した。

前半は、医学的に生とは何か、死とは何か、生きていることと死んでいることをどう判断するか、脳死とはどんな状態か、植物状態とはどのように異なるのかを丁寧に説明した。「死

という言葉が授業の中に何度も出てくることは、事前に担任の先生にも伝え、最近身近に不幸があったり大事なペットの死を経験したりした児童がいないかを確認した。また授業の最初に、気分が悪くなったらすぐに保健室に行っていくこと、我慢する必要はないことを直接子ども達に伝えた。授業の中では臓器の名前など医学用語がいくつか登場してしまうために、難解なイメージを与えやすい。魚や動物の心臓の拍動の動画も交え、自分自身の心臓の鼓動も確認してもらいながら、小学生にも理解し易いよう心掛けた。後半に繋がるように、授業の最後に脳死下臓器提供に触れた。子ども達の中には思いのほか臓器移植に興味強い子が多く、具体的な症例数など臓器移植に関する質問が複数出た。

後半の授業では、重症心疾患の患者を多く治療してきた小児循環器専門医が自身の経験に基づいて、心臓移植について、命について授業をおこなった。授業の中では先天性心疾患の心臓手術の動画や心臓移植の手術の動画そのものをみながら供覧した。教員も含めて何人か目を覆っていたが、人工心臓に繋がれて寝たきりになっていた自分とあまり歳が変わらない子どもが、心臓移植を受けて大好きなダンスを踊れるまでに回復した姿を見て、リアルに心臓移植という治療を実感できたのではないかと思われる。本授業は心臓移植という高度医療を教えることが目的ではない。心臓移植が成り立つためには「命の受け渡し」が必要であること、心臓移植を受けたい人やその家族、心臓を提供してもいいと考える人やその家族、脳死に対する様々な意見の存在など、あらゆる立場、多様な考えがあることを伝えること、そして、命のことを考えることで自分や他人の命を大切にすることを育むことが、本授業の目的である。子ども達には事前に2つの新聞の投稿を読んでくるよう宿題を出した。一つはわが子を臓器移植のドナーにはできないという母親の投稿、もう一つは脳死となり臓器を提供した女性の父親の投稿である。複

数の子ども達に、臓器提供・臓器移植について、脳死について、自分自身の考えを発表してもらった。授業の最後に、「いのちの授業」で聞いて考えたことを家族と話してほしいと伝えた。さらに、2つ目の宿題として自分の考えを紙に書いて後日提出してもらった。

後日提出してもらった感想・意見の中で、大半の児童が「もし自分が脳死になったら臓器を提供するか」という問いを立てて自分の意見を述べていた。そのうち、半数以上が臓器提供すると答えていたが、提供しないという子、また正直にわからないと答えた子もいた。また、一部の子は家族が脳死になったらという問いを立て、その半数は家族が脳死になったら臓器提供はしてほしくないと答えていた。このように、今回おこなった「いのちの授業」をきっかけに、白紙に自由記載という形式でも、子ども達は様々な立場での臓器提供・臓器移植を想像し、家族と話し、自分の考えを述べていた。

2019年時点で道徳の検定教科書8社のうち7社もの教科書で、生命の尊さに関する教材として「臓器移植」を扱っているという。臓器提供、臓器移植には一つの正解というものがない。臓器提供、臓器移植というテーマで授業をおこなうことは、自分が重い病気で臓器移植しか治療法が無いといわれたらどうするか、自分が脳死になったら臓器提供するか、親が脳死になったら臓器提供を承諾できるかなど、自分や家族、他人などいろいろな立場に立って物事を考える機会を提供する。臓器提供・臓器移植のテーマは、命を考え、命を大切にする、心を育む教材となると考えられた。

おわりに

PH Japanプロジェクトが活動の最後に実施した、日本小児循環器学会の評議員への学校教育との関わりに関する意識調査(回収率43%)では、回答者の6割以上が学会会員以外への教育事業に関心があると回答し、学会会員の学校教育への関心の高さを示す結果であった(未発

表)。学習指導要領改訂に伴い、カリキュラム・マネジメントの確立のため、学校教育において学校外部の人的資源の活用をはじめとした社会に開かれた教育課程がさらに加速すると予想される。学校教育への関心の高い医療関係者と学校のニーズとを相互に結び付けるシステム作りが求められる。

結語

子どもの「生きる力」を育むことを目的として道徳が教科化されたことを機に、医療関係者がおこなう「いのちの授業」が広がる可能性がある。実現性を高めるために学校と医療関係者との連携が必要である。

謝辞

PH Japan プロジェクトはグラクソスミスクライン株式会社から医学教育事業助成を得て実施した。

PH Japan プロジェクトの活動ならびに「いのちの授業」実施の機会を与えてくださったPH Japan プロジェクトチームメンバーである鮎沢衛先生、犬塚亮先生、土井庄三郎先生、松井彦郎先生、日本小児循環器学会事務局伏見はるか様、その他遠隔地メンバー、PH Japan プロジェクトセミナーの講師の皆様、国際医療福祉大学成田病院中西敏雄先生に感謝申し上げます。

文献

- 1) 文部科学省 平成29・30年改訂学習指導要領、解説等
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (cited 2021-02-01).
- 2) 文部科学省初等中等教育局教育課程課「道徳教育の抜本的充実に向けて」H29年度道徳教育指導者養成研修ブロック説明会 行政説明資料。
https://doutoku.mext.go.jp/pdf/h29_block_training_materials.pdf (cited 2021-02-01)
- 3) 文部科学大臣 松野博一. いじめに正面から向き合う「考え、議論する道徳」への転換に向けて。
https://www.mext.go.jp/content/20200305-mxt_kyoiku02-100002180_1.pdf (cited 2021-02-01).
- 4) 内田敬子 家庭や学校の感染対策は？ 小児科医の疑問に答える！子どもと新型コロナウイルス。小児科診療 2021；84：527-535.
- 5) Worlds of Influence Understanding What Shapes Child Well-being in Rich Countries UNICEF Innocenti, 'Worlds of Influence : Understanding what shapes child well-being in rich countries', Innocenti Report Card 16, UNICEF Office of Research – Innocenti, Florence, 2020.
<https://www.unicef-irc.org/publications/pdf/Report-Card-16-Worlds-of-Influence-child-wellbeing.pdf> (cited 2021-3-1)
- 6) 厚生労働省 令和2年 児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集
https://www.mext.go.jp/content/20210216-mxt_jidou01-000012837_009.pdf (cited 2021-2-1)
- 7) 文部科学省「学習指導要領の変遷」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/idea/1304360_002.pdf (cited 2021-2-1)